

# 7月例会はフランスのアニメ「アズールとアスマール」

## 6周年記念上映会は8月24日「夕凧の街 桜の国」

加古川シネマクラブでは、例会としての映画鑑賞会に加えて、年に1回か2回、一般に向けての映画上映会を実施するようになりました。盛会だった3年前の『父と暮せば』の上映会から始まったのですが、そのときは、大きな赤字となってしまったらどうしようと心配していたことを一番に思い出します。

今年は、8月24日(日)に加古川総合文化センターで佐々部清監督作品『夕凧の街 桜の国』の上映会を行います。

この作品は、広島原爆投下によって影響を受けた人々やその家族について、戦後から現代までの生涯を描いています。心の傷として残っている原爆の影響や、平和への想いなどを考えさせる現代劇でもあり家族ドラマでもあります。

上映会に合わせ、映画評論家の山田和夫さんの特別講演を行います。山田さんは、映像の持つメッセージ性の強さをしっかりと伝え続ける伝道者のような人物です。映画の製作や評論から、戦争をはじめとする社会情勢や、人間の自由を守ることの重要性について、強いメッセージを発している日本の映画評論の論客として知られています。是非、この上映会と記念講演に来て、山田和夫さんの日本映画に対する熱い想いを感じとってください。

この上映会は、加古川シネマクラブ6周年記念事業として、文化庁の日本映画上映支援事業の補助金を受けて実施するものです。多くの皆さんにご来場いただき、この会のことも広く知っていただきたいと思います。

### 6周年記念上映会「夕凧の街 桜の国」

名称 / 6周年記念上映会『夕凧の街 桜の国』

特別講演 山田和夫(映画評論家)

日時 / 2008年8月24日(日)

上映会は、AM10:30～、PM1:40～

特別講演は、PM0:30～PM1:30

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

料金 / 加古川シネマクラブ会員 800 円、一般 1,200 円。(非会員はチラシ割引などをご利用ください)

#### 【作品データ】

タイトル / 夕凧の街 桜の国

監督 / 佐々部清

原作 / こうの史代

出演 / 田中麗奈、麻生久美子、吉沢悠、中越典子、井崎亮則、金井勇太、藤村志保、堺正章

データ / 2006 年、日本、カラー、1 時間 58 分、ドラマ

#### 【解説】

佐々部清監督が贈る感動の人間ドラマ。平成16年度文化庁メディア芸術賞マンガ部門大賞、第9回手塚治虫文化賞新生賞を受賞したこうの史代の同名マンガを実写映画化。

原爆投下から13年後と、現代に生きる二人の女性の物語を通して、戦争がもたらした深い傷跡を映し出す。被爆

した女性の苦しみを描いた『夕凧の街』では麻生久美子、現代を生きる彼女のめいの姿を描いた『桜の国』では田中麗奈が演じる。被爆者の癒えることのない痛みが胸を塞ぎ、いま一度戦争や命の尊さについて考えさせられる作品。

#### 【特別講演講師 / 山田和夫】

映画評論家。1928年大阪府生まれ。東京大学経済学部卒。映画業界紙記者を経て映画評論家。モニター・ジュ理論・エイゼンシュテイン研究の第一人者。エイゼンシュテイン・シネクラブ(日本)代表。「映画人九条の会」呼びかけ人。日本映画復興会議代表委員。著書に『山田和夫の世界映画の発見』、『映画で世界を読む』、『エイゼンシュテイン - 映像世紀への飛翔』他多数。

### 7月例会のお知らせ

名称 / 第37回例会『アズールとアスマール』

日時 / 7月11日(金) PM2:00～、PM4:20～、PM6:40～

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

この作品は、会員同伴のこども(中学生以下)は、無料で入場できることとしました。



## 【例会作品データ】

タイトル/アズールとアスマール(アニメーション、日本語版)

監督/ミッシェル・オスロ

日本語版監修/高畑勲

日本語版声の出演/浅野雅博、森岡弘一郎、香川照之、玉井碧、岩崎響

データ/2006年、フランス、1時間39分、アニメーション/ファミリー/アドベンチャー



## 【解説】

『キリクと魔女』、『プリンス&プリンセス』のミッシェル・オスロ監督が、異なる文化の人間同士の相互理解と融和をテーマに描くファンタジー・アニメーション。

遠い国へ旅立った少年が、様々な出会いや体験をする寓話的冒険譚。監督独特の美しい

絵画スタイルと3D-CGによる人物描写の新たな手法で表現されていく。

ヨーロッパの領主の子アズールとアラビア人の乳母ジェナヌの子アスマール。身分も人種も違うふたりであったが、彼らはジェナヌの子守歌を聞きながら兄弟のように育てられた。やがてアズールは寄宿生活となり、用のなくなったジェナヌと共にアスマールも屋敷を出て行くことになった。その後、成長したアズールは、ジェナヌの子守歌が忘れられず、その国を訪ねるため遠く海を渡った。しかし、ようやく辿り着いたイスラムの地で、「青い目は不吉」との言葉を耳にしたアズールは、目を閉じて盲目のふりをして旅を続ける。やがて、アズールは、大富豪となったジェナヌとアスマールとの再会を果たすのだった。

## 例会選定会議のお知らせ

2009年1月、3月、5月の例会作品の選定会議を、8月19日(火)午後7時から山本さん宅(JR東加古川駅西へ徒歩10分、加古川サティ西隣)で開催しますので、ご参加いただきますようご案内いたします。

場所がわかりにくい方は、近くから携帯電話(090-9283-0435)に連絡いただければお迎えに行きます。

## 映画大学 in 姫路

いよいよ、「映画大学 in 姫路」が近づいてきました。7月19日から21日まで姫路文学館を中心会場として開催されます。映画大学は、映画鑑賞団体全国連絡会議(全国映連)が主催するイベントで、映画製作の現場に携る方々をたくさんお招きして、お話を聴いたり、講師陣や全国各地の

団体の仲間と交流する全国の映画鑑賞団体にとっての一大イベントです。

7月19日(土)は、山下敦弘監督「わたしの撮りたい映画」、岡真理さん「オリーブの木陰で～パレスチナ問題から考える「映画」の意味～」、そして交流会。20日(日)は、山田和夫さん「映画の窓から世界が見える」、俳優の加藤武さん「俳優人生を語る」、字幕翻訳家の太田直子「字幕屋は銀幕の片隅で日本語が変だと叫ぶ」、そして特別上映会「螢の墓」、21日(月・祝)は、山田洋次監督「今思うこと」、ジャーナリスト伊藤千尋さん「反米大陸(中南米)から日本をみる」と充実した内容です。

参加費や申し込み方法など詳しくは、チラシをご覧ください。現地事務局、姫路シネマクラブ(TEL079-281-8007、FAX079-281-7980)。

## 前回例会の報告

5月13日の例会では、アメリカの医療の仕組みから社会を痛烈に風刺したコミカルなドキュメンタリー『シッコ(SICKO)』を鑑賞しました。

参加会員130人。会員数と参加者の減少が気がかりでした。

## オススメ映画

公開初日『僕の彼女はサイボーグ』を見に行ったら、『猟奇的な彼女』のクァク・ジェヨン監督が、神戸でロケを行った作品というだけで、封切りと同時に見る価値がある。想像していたより少し荒唐無稽なストーリーだったが、SF娯楽恋愛映画というジャンルがあれば、高評価間違いなしのオモシロイ作品だった。

また、ストーリーとの脈絡は苦しいが、少し映る日本の美しい風景も印象に残った。

何よりも大スクリーンの中に、見慣れた神戸大丸周辺の風景が盛りだくさんで、「このビルも神戸ロケのかなあ」などと気にしながら楽しめた。

ワーナーマイカル加古川では、そろそろ上映打切りだから。SF娯楽恋愛映画ファンの方はお見逃し無く!

(ハインリッヒ)

## ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

**加古川シネマクラブ** 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 189人(5月13日現在)